

## 現行の県立高等学校活性化計画の取組状況

現行の県立高等学校活性化計画は5年間の計画期間のうち4年間の経過しました。現行計画の平成27年度末における取組状況は以下のとおりです。

### 1 「活性化のための取組」(計画P6) について

(主な取組状況)

- ① 理数教育では、スーパーサイエンススクールとして、伊勢高校が指定を受けるとともに、津高校、松阪高校が再指定されるなど取組が進みました。
- ② グローバル教育では、スーパーグローバルハイスクールとして、四日市高校が指定され、グローバルリーダー育成に係る取組を進めています。
- ③ 英語教育では、全国的に「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能全てにおいて課題があることが指摘されており、本県においても同様の課題がみられます。
- ④ キャリア教育では、キャリア教育全体計画の策定が進み、職業や働くことの意義等の理解が進みました。
- ⑤ 特別支援教育においては、個別の指導計画を作成した学校の割合が約9割となりました。一方、通級による指導の制度化(平成30年度)への適切な対応や、障害者差別解消法の施行に伴う「合理的配慮」を提供するための校内体制の整備が課題となっています。
- ⑥ 連携型中高一貫教育については、連携中学校から連携高等学校への進学率が低迷しています。

### 2 「各学科の教育内容の充実による活性化」(計画P15) について

(主な取組状況)

- ① 普通科・普通科系専門学科では、基礎学力の定着・向上への取組を推進するとともに、進学指導にかかる課題の共有や効果的な指導方法についての研究が進みました。
- ② 職業系専門学科では、社会の変化に対応するための学科改編を行いました。また、各種コンクールに入賞する生徒や資格試験等に合格する生徒が増加しました。
- ③ 総合学科では、多様な進路希望や地域のニーズに対応するため、各校の系列や科目の見直し等を進めました。

### 3 「県立高等学校の適正規模・適正配置」(計画P23) について

(主な取組状況)

- ① 学校規模の適正化については、1学年あたりの平均学級は5.91学級とな

っています。

- ② 現計画においては、県立高校の適正規模を1学年3学級以上8学級以下とし、1学年の2学級以下の小規模校については、原則として分校とするとともに、近隣の高校との統廃合を視野に入れて検討することとしています。地域による高校活性化等の取組が進められる中で、適正規模を下まわる学校が増加しました。

#### 4 「各地域の県立高等学校活性化の取組」(計画P24) について

(主な取組状況)

- ① 中学校卒業者の減少が著しい地域(伊賀、伊勢志摩、東紀州)において県立高等学校活性化協議会を開催し、各地域の県立高等学校の特色化・魅力化、適正規模・適正配置について協議を継続しています。
- ② 伊賀地域において、地域の学習ニーズをふまえ、平成28年度に名張青峰高等学校を開校しました。